

会 議 録 概 要

会 議 の 名 称	令和7年度第2回ひろさき教育創生市民会議
開 催 年 月 日	令和8年3月25日(水)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後2時00分 から 午後4時00分 まで
開 催 場 所	岩木庁舎2階多目的ホール(弘前市大字賀田一丁目1-1)
座 長 の 氏 名	国立大学法人弘前大学 教育学部 教授 福島 裕敏
出 席 者	座長 福島 裕敏 委員 石戸谷 恒鋭 委員 山本 勝規 委員 工藤 千華 委員 岡田 敦史 委員 鎌田 眞佳 委員 奥野 武志 委員 相馬 隆子 委員 佐藤 智絵 委員 福島 龍之 委員 佐藤 信隆 委員 清宮 絵里子 委員 鈴木 勝久 委員 寺田 一樹
欠 席 者	委員 山口 祝一 委員 矢田 公夫 委員 佐藤 滋子 委員 横山 晴彦 委員 福井 深雪 委員 藤田 俊彦 委員 中川 伸吾 委員 椛澤 睦子 委員 猪股 豊 委員 旭澤 友多 委員 井上 裕太
事務局職員の職 氏 名	教 育 長 吉田 健 学校整備課長 安田 宏記 教 育 部 長 森岡 欽吾 教育センター所長 前田 清幸 学校教育推進監 福田 真実 生涯学習課長 中川 元伸 教育総務課長 高谷 由美子 中央公民館長 高森 紀之 学校指導課長 工藤 利彦 文化財課長 石岡 博之 学務健康課長 原 直美 高岡の森弘前藩歴史館長 熊谷 義昭
会 議 の 議 題	「次期弘前市総合計画策定に向けて『政策①学び 政策の方向性2生涯学習体制の推進』について」
会 議 資 料 の 名 称	次期弘前市総合計画策定に向けて『政策①学び 政策の方向性2生涯学習体制の推進』について
会 議 内 容 (発言者、発言内容、 審議経過、結論等)	1 開会 2 教育長挨拶 3 委員紹介 4 組織会 5 議事(グループ討議) 6 閉会 【内 容】(概要) 4 組織会 座長は福島裕敏委員、座長代理が奥野武志委員に決定した。

5 議事

「次期弘前市総合計画策定に向けて『政策①学び 政策の方向性 2生涯学習体制の推進』について」

「多様な学習機会の提供」「地域コミュニティの活性化」「社会教育施設と体制の充実」の3つのテーマでグループに分かれ、生涯学習政策の方向性（考え方・あり方）について討議し、発表する。

（事務局説明）

説明：生涯学習課

資料：「『政策①学び 政策の方向性 2生涯学習体制の推進』について」

○グループ討議

座長よりグループ討議の進行手順について説明

○各グループからの報告

（Aグループ：多様な学習機会の提供）

- ・出された意見はオンライン、主体は誰か、学びのあり方、情報発信、多世代交流の5つに分けられた。
- ・情報発信はされているそうだが、上手く届いていないのではないかと。情報を探さなくても目につく工夫が必要である。
- ・個人の学びから地域コミュニティの活性化につなげるためには、例えば草野球のような既にある集まりに行政が入っていくことで新たな意味づけも生まれるのではないかと。
- ・インプットの学びだけでなく、対話などの繋がりづくりが必要ではないかと。
- ・イベントがなくても、そこに行けば何かがあるとか、いろいろな人と話せる繋がる、情報に触れられる、そのような場所があるといい。夜間中学の話題もあり、多様な学び、学びたい人、支援者が繋がる場所があるといい。
- ・重要度と緊急度、生活に直結するかどうかで、学びの種類やあり方は分かれていくと考える。

（Bグループ：社会教育施設と体制の充実）

- ・拠点、体制づくり、人材育成の3つのテーマで話をした。
- ・社会教育施設が単なる場所から拠点になるためには、情報と人材が必要で、ハブとなる機能が必要となる。
- ・人材の確保について、ボランティアのリーダーが絶対に必要で、退職した高齢者には人をまとめる才能がある方がいる。また、町会長は長生きするというデータもある。退職後は自身の健康や地域のために、地域で活躍することは、名誉職であるという社会的雰囲気醸成が必要だ。

- ・また、表彰制度を設けることで持続していけるシステムにしていく必要がある。
- ・市民は困りごとや悩みがあって集まるので、施設の使用料は安くし、入口を広げるべきである。
- ・世代によって学びのニーズはあると思うが、地域のニーズとしては、除雪、空き家、防災問題がある。それらについて、社会教育施設に皆が集まり、情報・人材が繋がるハブ機関としての機能を活用できたらいい。

(Cグループ：地域コミュニティの活性化)

- ・地域コミュニティの活性化を中心にしながらもA、Bグループの話題にも触れた。
- ・生涯学習は人生をより豊かに楽しく幸福感を持っていくために行うと考えると、行政は生涯学習を始めるきっかけ作りを行うことが大事である。
- ・スポーツやダンス、オーケストラ等のように人数がその場に集まらないとできない性質のもの、また、多くの人を経験・体験を得られる機会の提供を重視したらよいのではないか。具体的には市民会館や、文化センターでの音楽、演劇鑑賞や、れんが倉庫美術館での絵画鑑賞などである。
- ・民間のカルチャーセンターや、他の施設、インターネットを利用して解決しない手段のものを重点的に支援していくべきだ。
- ・生涯学習を地域コミュニティの活性化の手段にすることについて、多世代交流は難しいという考え方、その難しさを乗り越えてこそ、人生において人間が成長できるという考え方、双方の意見があった。
- ・活性化に向けては、まず人が集まることが必要なので、学習成果の発表会や展示会を行うことが大事である。(参加料を)無料や低価格などにして、展示会発表会に足を運ぶハードルを下げたり、桜まつり、菊と紅葉まつり、雪まつりなど、沢山の人が来る機会を利用するのもいい。
- ・生涯学習の各分野のリーダーがいて、体験の機会を提供してくれれば、弘前市民の生涯学習はもっと活性化していくため、人材育成が重要である。

【発表で出た意見について（生涯学習課長）】

- ・生涯学習や社会教育は耳にする機会があると思うが、グループ討議としては、なかなか難しいテーマだったと思う。皆様には感謝申し上げます。
- ・生涯学習とは、人々が生涯に行うあらゆる学習、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場面や機会で行う学習

とされている。

- ・ Aグループでは、情報発信の工夫や、学びのあり方として行政の連携方策、グループBでは、人材確保、場所から拠点、体制について、Cグループには生涯学習の意義という点で皆様に沢山ご意見を頂いた。
- ・ 生涯学習において主体となるのは学習者本人だが、その学習する、環境整備とか、学習機会を提供することは教育委員会の重要な役割だと考えている。
- ・ 次期総合計画の策定においても、生涯学習推進体制の充実は重要な政策だと考えている。学習機会の提供や学習成果の活用など、生涯学習政策の方向について、次期総合計画の策定の参考にさせて頂く。

(座長まとめ)

- ・ 私の地元は、比較的市民活動、公民館活動が活発な地域で、私も幼少期は公民館でお楽しみ会の劇の練習をするなど馴染みがあった。
- ・ 母の話だが、公民館で稽古事を楽しんでいたが、次第にメンバーがいなくなり、ラジオ体操サークルを立ち上げた。高齢者の見守りにもなっている。
- ・ 社会教育として、何を大事にするべきかと考えると、稽古そのものよりも、始まりと終わりのおしゃべりや、そこで出来た関係性が、保障すべき財産であると考えます。
- ・ また、若者の居場所はどうやって保障されるのかを考える必要がある。学校と家庭に居場所がない子はどこで、何をすればいいのか。
- ・ 私の地元の公民館では、家にも居場所がない子供が集まっていたが、その職員が彼らのやってみたい事を聞き取り、ブレイクダンスの講師を探してきて習わせて、子供たちの自信に繋げていった事例がある。
- ・ リタイアされたお年寄りの中で、移動もままならない人たちが、どこかに集まって何か出来ることを意図的に保障していくこと必要だと考える。
- ・ 生涯学習はずっと勉強していくことと考えてしまいがちだが、色々な刺激を受けて、自分なりの新しい見方が出来るようになったり、他人との関わり方や自分の生活の意味や幸福を考えたり出来る機会だと捉えるべきではないか。今様々な学びが出来る状態の中で、公共の場所としては、何を大事にするのを考えていく必要がある。
- ・ 生まれてから死ぬまでの間の学びをどういうデザインするのか、ウェルビーイングに繋がる学びをどう用意するのかといった視点からまた議論できたらいいと考える。

5 閉会